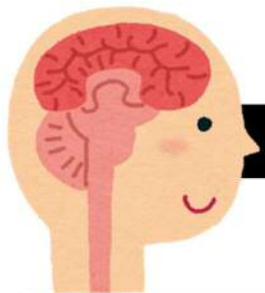


# 認知症とともに～認知症になっても安心して暮らすために～

認知症は、誰にでも起こりうる身近な病気です。

2025年には、高齢者の5人に1人が認知症になると予想されています。



## 認知症ってどういう病気？

認知症は、脳の病気です。脳の細胞が壊れてしまったり、働きが悪くなったりすることで、認知（記憶・判断する機能）が低下し、生活に支障が出てきます。

## 認知症の症状

### アルツハイマー型認知症

- ・物忘れ、時間、日にち、場所などがわからなくなるなど。
- ・初期には話を合わせたり、取り繕ったりできるので、病気だとわかりにくい。

### 脳血管性認知症

- ・脳の血管が詰まったり、破れたりすることが原因で、情報伝達がうまくいかなくなり、強い物忘れ、意欲の低下などが起こる。
- ・身体の麻痺を伴うことが多い。

### レビー小体型認知症

- ・実際にはないものが見えたり（幻視）、聞こえたりする（幻聴）。
- ・手足が震える、よく転ぶ、身体や表情が硬くなるなどのパーキンソン症状が現れる。

## 道に迷った高齢者を見かけたら…



2019年に認知症が原因で警察に行方不明届が出された人は、過去最多の1万7400人にのぼります。行方不明者のうち、毎年500人近くが死亡した状態で発見されています。

道に迷った高齢者が死亡する原因は、交通事故、溺死（池や川に落ちる）、凍死などです。例えば、高齢者が歩道でなく車道を歩いているなど危険な場面を見かけたら、安全確認のため、やさしく声をかけてみてください。

★差し迫った危険が予想される場合は110番通報してください。



### 【認知症による徘徊者の特徴】

- 季節や気候にそぐわない服装をしている
- 同じ場所を行ったり来たりしている
- 雨の日に傘をささずに歩いている
- 立ち入ることが危険な場所にいる など

## 高齢者 見守りメール を登録してみませんか

徘徊で行方不明になった高齢者等の早期発見・早期保護を図るため、市では福岡県のメール配信システム「防災メール・まもるくん」を活用しています。登録は無料です。認知症の方、そのご家族を、地域で見守りましょう。

防災メール・まもるくん

検索

## 早期発見のために ～認知症を正しく知ろう～

認知症の早期発見のために、正しい知識を持ち、地域で見守ることが大切です。

### ●認知症サポーター養成講座

認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を見守る「応援者」です。

市では「認知症サポーター養成講座」を開いています。受講者には「認知症の人を応援する」という意思を示す目印として、オレンジリングを渡します。あなたも受講してオレンジリングの輪を広げてみませんか！



現在の医療では、脳の細胞が壊れて直接起こる症状（物忘れ、理解・判断力低下、見当識障害など）を治すことはできません。

しかし、症状が進行するのを遅らせたり、行動・心理症状（不安や焦り、幻覚、意欲の低下など）を和らげたりすることはできます。

**「認知症かもしれない」と思ったら、  
専門機関等に相談しましょう！**

## 認知症の人を尊重し、寄り添うために

身近な人が認知症になると、はじめは誰もがショックを受け、戸惑います。

しかし、一番最初に認知症の疑いに気づき、不安を感じたり、不自由さに苦しんでいるのは、認知症になった本人です。

また、認知症になっても、習慣、好み、価値観など、その人らしさや感情は残っています。

認知症の人の安全に配慮しながら、周囲の人の支えによって、認知症の人ができることを尊重することも大切です。

高齢者を狙った詐欺が増えていて心配。  
おじいちゃんのお金は私がしっかり守らないと。



がんばって貯めたお金だから、少しでも自分の思いどおりに使いたい。

最近、おばあちゃんのもの忘れが激しい。  
道に迷ったり、事故に遭ったりしないようずっと家にいてもらおう。



散歩して体を動かしたり、季節を楽しんだりしたい。  
ご近所さんとおしゃべりしたい。

認知症の人の気持ちに寄り添い、安心感を与える対応をすることで、認知症による問題行動や不安は改善する可能性があります。

介護者が気持ちの余裕を持ち、認知症の人の心理を自然に受け止めるために、専門機関等に相談して正しい対応方法を知り、必要に応じてサービスを利用することが大切です。